

注目成分

じゃばら

「邪気を払う」ことから
名付けられた幻の果実

「じゃばら」とは、全国唯一の飛び地村である和歌山県北山村産の、柚子やカボスに似た柑橘類。“邪気を払う”ほど強烈な酸味と苦みが名前の由来。最近テレビや雑誌でも、じゃばらの働きが注目されています。

邪
払



グズグズ
ムズムズ

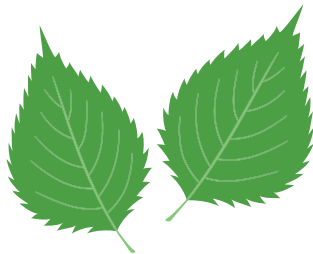


↑ 早めの ↑
花粉対策
内から

シソ

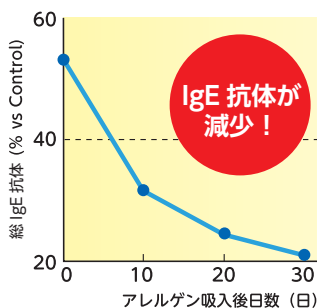
薬味などで利用されるシソは、カロテンや鉄などのビタミン・ミネラルが豊富。葉や種子に抗酸化作用のあるフラボノイドを含み、アレルギー反応の原因物質 IgE 抗体の産生を抑制します。

防御反応の
原因物質産生を
セーブ!



IgE 抗体産生抑制作用

アレルゲンの反復吸入による気道炎症モデル(ぜんそくモデル)のマウス試験において、シソエキス摂取で IgE 抗体の過剰産生を抑制する結果が出ました。



アレルギー症状を緩和させたり、免疫力を高めると期待される。花粉対策の強い味方をご紹介します。体の中からコツコツ整えましょう。

花粉対策 おすすめ成分

カラダの内からブロック!

スーパーフラボノイド「ナリルチン」

症状緩和の
秘密

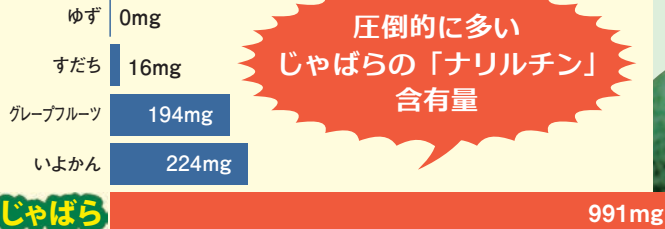
主に柑橘類に含まれるフラボノイドの一種。アレルギー症状を起こす原因「ヒスタミン」などの炎症物質の放出を抑える働きがあり、症状の改善に役立つとされています。

じゃばらは、他の柑橘類に比べ「ナリルチン」が圧倒的に豊富（下のグラフ参照）。さらに、果汁よりも果皮に13倍も多く含まれています。また、じゃばらを醗酵・熟成させることで抗酸化・抗アレルギー成分「5-HMF」を格段に増加させた「醗酵黒じゃばら」も注目されています。ナリルチンとの相乗効果で、アレルギー症状の緩和効果をアップさせるとされています。

果皮と果汁のナリルチン含有量 (g当たり)

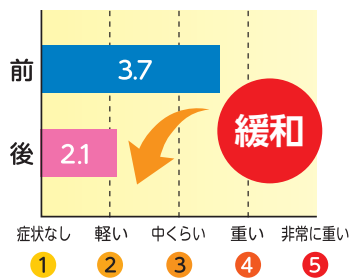


【柑橘類のナリルチン含有量 (mg/個)】

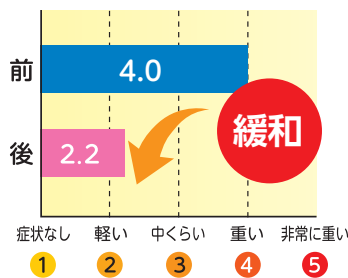


じゃばら：大阪薬科大学生薬科学研究室調べ
じゃばら以外：久保ら：Nat.Med 58(6),284-294(2004)

くしゃみ



水っぱな



くしゃみ・水っぱなの 症状が緩和

岐阜大学医学部付属病院の協力で、花粉症を発症中の15人の男女に、じゃばら果汁10mlを2～4週間飲んでもらい、試験前後の症状の変化を5段階で評価。症状の緩和が認められました。

ビフィズス菌

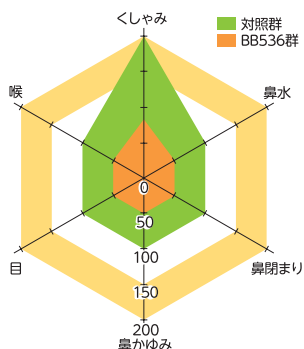
腸内環境を良くする善玉菌で、大腸内の悪玉菌や病原微生物の増殖を抑制し、有害物質の生成を防ぎます。免疫バランスを改善し、花粉症などアレルギーに強い体質づくりをサポート。

免疫バランスを
改善！



花粉症の症状が緩和

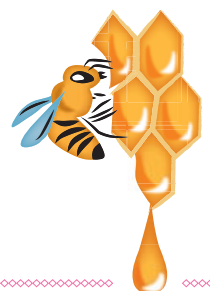
花粉症の人44名に、ビフィズス菌 BB536 粉末またはプラセボ（機能成分なし）粉末を摂取してもらったところ、ビフィズス菌 BB536 摂取群では花粉症の自覚症状の緩和が認められました。



プロポリス

抗菌や免疫力アップだけでなく、花粉症などのアレルギー改善にも役立つプロポリス。ロイコトリエンなどの炎症物質の放出を抑えることで、症状を緩和させるとされています。

炎症物質の放出を
コントロール！



プロポリスの花粉症軽減作用のメカニズム

